

ICC判事に対する米国の制裁：国際正義と「二度と繰り返さない」の遺産への裏切り

2025年2月7日と6月5日、ドナルド・トランプ大統領とマルコ・ルビオ国務長官の下、米国は国際刑事裁判所（ICC）を非合法かつ政治的だと非難した。彼らは、イスラエルの戦争犯罪と人道に対する罪の調査における役割に対する報復として、ICCの主任検察官カリム・カーンと判事ソロミー・バルンギ・ボッサ、ルス・デル・カルメン・イバニェス・カランサ、レーヌ・アデレード・ソフィー・アラピニ・ガンソー、ベティ・ホーラーに対して制裁を課した。これらの措置には、資産の凍結や渡航禁止が含まれており、2024年11月24日にイスラエル首相ベンヤミン・ネタニヤフと元国防相ヨアヴ・ガラントに対する逮捕状の発行に対する明確な報復として、また、ベザレル・スモトリッチとイタマル・ベン・グヴィル両大臣が違法な入植地の推進とガザの人道危機の悪化に関与したとして潜在的な訴追を阻止するために設計された。この前例のない干渉は、裁判所の運営を脅かし、ホロコースト後の普遍的な責任追及への世界的なコミットメントを損なうものである。

このエッセイは、国際社会が言葉による非難を超えて、イスラエルと米国に対する経済的・外交的制裁、ドナルド・トランプとマルコ・ルビオに対するICCの訴追、そして裁判所とその職員を米国の過剰な介入から保護するためのEUのブロッキング・スタチュートの活性化を含む、責任追及を実施する必要があると主張する。

ガザにおけるイスラエルの行動：ジェノサイドの事例

1948年のジェノサイド条約は、ジェノサイドを、国家的、民族的、人種的、または宗教的集団を全部または一部破壊する意図をもって行われる行為と定義し、殺害、重大な身体的または精神的危害の引き起こし、または物理的破壊を目的とした生活条件の強制を含む。ガザにおけるイスラエルの軍事作戦は、これらの基準を驚くべき明確さで満たしている。人道援助の体系的な制限、市民への標的攻撃—援助工作者、緊急サービス、医療従事者、ジャーナリストを含む—、および病院などの必須インフラの破壊は、ガザのパレスチナ人の物理的破壊を目的とした条件を意図的に課す意図を示し、1948年ジェノサイド条約の第II条に基づくジェノサイドの法的定義を満たす。2024年11月21日にネタニヤフとガラントに対して発せられたICCの逮捕状は、戦争犯罪および人道に対する罪としての飢餓を彼らに非難し、この法的評価を裏付けている。

アムネスティ・インターナショナルの2024年12月の報告書は、イスラエルの包囲がパレスチナ人に食料、水、医療物資、燃料へのアクセスを体系的に拒否し、パレスチナ人口を破壊する意図で条件を作り出すことにより、ジェノサイドを構成すると断言した。国連の占領下パレスチナ領土に関する特別報告者フランチェスカ・アルバネーゼは、2024年3月の報告書「ジェノサイドの解剖学」において、ジェノサイドの「合理的な根拠」を特定し、54,607人以上のパレス

チナ人の死、100,000人の負傷、ガザの人口をわずか15平方マイルに閉じ込めることを挙げ、これが広範な疾病と飢餓を引き起こした。Sde Teimanのような拘留キャンプでの性的暴力に関する報告は、パレスチナ人の尊厳と生存を標的としたジェノサイドの意図をさらに示している。

イスラエル当局者のレトリックはこれらの発見を裏付けている。2023年10月のアイザック・ヘルツォグ大統領の声明は、すべてのパレスチナ人をハマスと同一視し、戦闘員だけでなく全体の集団を標的にする意図を示唆している。スモトリッチの「ガザに小麦一粒も入れない」という呼びかけと、ベン・グヴィルのガザとヨルダン川西岸の併合を支持する主張は、ジェノサイドの意図を反映している。これらの声明と行動は、米国の軍事および政治的支援によって支えられており、国際人道法に違反するだけでなく、ホロコースト後の時代の礎である「二度と繰り返さない」という普遍的なコミットメントを裏切るものである。

「二度と繰り返さない」の弱体化：ニュルンベルクの反響

ホロコーストの恐怖から生まれ、ニュルンベルク裁判で確立された「二度と繰り返さない」という約束は、地位に関係なく残虐行為の加害者を責任追及するというグローバルなコミットメントを確立した。ニュルンベルク裁判は、ナチスの役人を戦争犯罪、人道に対する罪、ジェノサイドで訴追したが、彼らの裁判所の合法性に対する異議にもかかわらずである。米国の行動と声明は、国際法廷が国家主権を侵害するというナチスの主張を反映している。この類似性は単に歴史的なものではなく、深く象徴的である。ニュルンベルク裁判は、国家指導者を含む個人が国際犯罪に対して個人的な責任を負うという原則を確立し、ICCを統治するローマ規程に成文化された原則である。米国の制裁は、司法義務を果たしている判事を標的にすることで、ローマ規程の第70条に違反し、裁判所職員に対するその仕事への報復を禁止している。この威嚇行為は、責任からの加害者の保護、ニュルンベルクの遺産を損ない、「二度と繰り返さない」のコミットメントを裏切る無罰の文化を助長する。

アポフィス、ラー、マアトのメタファー

古代エジプト神話では、混沌の邪悪な化身である蛇アポフィスが毎晩冥界を這い、真理、正義、宇宙秩序の神聖な女神マアトを飲み込もうとし、世界を永遠の闇に突き落とそうとする。セトはその槍で、イシスはその魔法で、トートはその知恵で、夜明けが訪れるまでマアトを守り、最終的にラーの光が闇の力を打ち負かす。

同様に、ガザでの行動を通じてイスラエル、ならびにそれを正義から守る米国は、我々の世界を闇に沈めた。ICCの125の加盟国である国際社会は、今、マアトの守護者の役割を担わなければならない。セトが蛇の心臓を突き刺すように、イスラエルと米国に制裁を課し、EUのブロッキング・スタチュートを魔法の盾として使用してICCとその職員を米国の制裁から保護し、ジェノサイドを犯し支援する者に対して訴訟を起こすために法務専門家の知恵を活用する。真理と正義の守護者は、世界が混沌と闇に沈むのを防ぐために断固として行動しなければならない。

決定的な国際的行動の必要性

ICC、国連の専門家、人権団体が表明した米国の制裁に対する単なる言葉による非難は、国際正義に対するこの攻撃に対抗するには不十分である。国際社会は、ICCの独立性を保護し、責任を確保するために断固として行動しなければならない。第一に、ICCは、ドナルド・トランプ大統領やマルコ・ルビオ国務長官を含む米国高官に対して、ローマ規程の第70条lit dおよびeに基づく司法の管理に対する犯罪で訴追を追求すべきである。彼らの大統領令と制裁は、裁判所の仕事を妨害し、威嚇し、報復する意図的な試みであり、訴追の基準を満たす行動である。このような大胆な一歩は、ICCの公平性へのコミットメントを再確認し、強力な国家によるさらなる干渉を抑止するだろう。

第二に、ローマ規程の締約国である27の加盟国を持つ欧州連合は、米国の制裁の域外効果に対抗するために、そのブロッキング・スタチュート（理事会規則（EC）No 2271/96）を活性化しなければならない。この規則は、外国の制裁からEUの団体を保護するために設計されており、ICC判事に対する米国の措置の遵守を禁止し、欧州の銀行や機関が判事の資産を凍結したり、その活動を制限したりしないことを保証できる。ブロッキング・スタチュートを活性化することで、EUは自らの管轄内でのICCの運営を保護し、国際正義を損なう試みを容認しないことを示すことができる。

第三に、ICC加盟国は、資金の増額、逮捕状の執行における協力、裁判所の任務の公開再確認を通じて支援を強化しなければならない。これらの行動は、人権活動家が警告する、証人を抑止し、他の紛争地域での捜査を妨げる可能性がある米国の制裁の抑止効果に対抗するだろう。断固とした行動の失敗は、国際法システムに対する公衆の信頼を侵食し、他の国家が米国の例に倣うことを奨励し、ICCが世界中の残虐行為の被害者に正義を提供する能力をさらに弱めるリスクを冒す。

結論：正義の均衡の回復

ICC判事に対する米国の制裁は、ニュルンベルクでのナチス高官の反抗を反映し、「二度と繰り返さない」の約束を損なう、国際正義の原則に対する直接的な攻撃を表している。ジェノサイドの意図を持った組織的な大量殺戮を特徴とするガザでのイスラエルの行動は、責任追及を要求するが、米国の干渉は加害者を保護し、無罰を永続させる。アポフィス、ラー、マアトのメタファーは、混沌が勝利することを許せば、真理と正義を支えるグローバルな秩序が脅かされることを強調している。国際社会は断固として行動し、トランプとルビオの米国高官に対するICCの訴追を追求し、裁判所とその職員を保護するためにEUのブロッキング・スタチュートを活性化しなければならない。このような断固とした措置を通じてのみ、ニュルンベルクの遺産を保持することができる。イスラエルの残忍な攻撃の被害者は、正義を要求し、受けるに値する。